

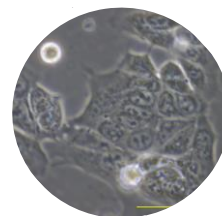
九州がんセンター主催

第6回「親と子の「がんと遺伝子」夏の講習会」

- 募集がはじまりました! -

当院は、がんの専門施設、基幹施設として、地域の中心となって日々がん診療に携わっておりますが、がんへの理解を普及させることもその使命のひとつと考えています。ゲノム計画、クローン技術、遺伝子治療など、近年の生物学の進歩には社会の大きな関心が集まっています。がん研究においても、「遺伝子」をキー・ワードに、その最新の知見が注目を集めていますが、一般の方々には、「遺伝子」や「ゲノム」は、まだまだイメージしにくい、現実ばなれした存在ではないでしょうか。昨今、がんへの危機感

顕微鏡で見たがん細胞



の高まりとともに、市民公開講座などがさかんに開催されていますが、その話題はがん診療そのものが中心です。また、次世代の担い手である子供たちががんについて学ぶ場も見当たりません。がんはどのようにしてできるのか、またがん細胞はどのような生き物なのか、その根幹である遺伝子とゲノムにさかのぼって考えることも大切ではないでしょうか。また、子供たちが、がん細胞や遺伝子の実態であるDNAを実際に目で見、手で触れてみることも必要ではないでしょうか。当院は研究所を併設しており、長いがん研究の歴史をもちます。そこで2011年にはじめての取り組みとして、がんの専門病院ならではの、市民のための「がんと遺伝子」講習会を開催しましたところ、大変ご好評をいただきました。



がん細胞を観察する子供たち

昨年の第5回講習会は、7月25日(土)、26日(日)の2日間開催され、福岡県内から公募で選ばれた小学校4年生から中学校3年生までの8人の児童・生徒とその保護者、8組



DNAが現れる瞬間

16人が九州がんセンター臨床研究センターに集いました。プログラムは、顕微鏡を用いたがん細胞(培養細胞)の観察からDNAの抽出実験、塩基配列解析までと、まさにがんの分子生物学入門編ともいえる本格的なものです。普段見ることのない、また手に触れることもない細胞やDNAを前に、会場の臨床研究センターには子供たちの歓声が響きました。メデ

ニアからの関心も高く、例年、新聞数紙より取材を受け、記事が掲載されています。がん専門病院のめずらしい取り組みとして、子供たちの科学への関心を刺激する試みとして、注目されているようです。



DNA 模型を前にしての討論

本年も、下記のように、本講習会の開催を計画しております。参加にご興味をおもちの方は、当院のがん相談支援センター(TEL: 092-541-8100 担当：竹山)まで、ご遠慮なくお問い合わせください。



集合写真

※本ページに掲載した写真は2011年の第1回講習時に撮影されたものです。

募集概要

平成 28 年 5 月 20 日

独立行政法人国立病院機構九州がんセンター

九州がんセンター主催

第 6 回 親と子の「がんと遺伝子」夏の講習会

がんを遺伝子から、ゲノムから考える。細胞を、DNA を、見て、触る親と子の講習会

2016 年 8 月 6 日(土)、7 日(日)

1. 応募資格・人数

福岡県もしくはその近隣に在住で、小学校高学年および中学校に在学する児童・生徒 1 名とその保護者 1 名の 8 組、計 16 名。

2. 応募方法

郵便はがき、もしくは、封書で、

- ① 児童・生徒の氏名および学年
- ② 保護者の氏名、年齢、続柄
- ③ 連絡先住所、電話番号、メールアドレス
- ④ 応募理由(200 字以内。原則として児童・生徒本人が書くこと)

を下記住所までご郵送ください。

3. 応募締切

2016 年 6 月 24 日(金)必着

4. 選考・発表方法

応募理由をもとに選考し、6 月 30 日ごろまでに当選者にご連絡いたします。

5. 連絡先

〒811-1395 福岡市南区野多目 3-1-1
独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
がん相談支援センター：TEL; 092-541-8100

担当：竹山(内線 5657, takeyama.y@nk-cc.go.jp)